

令和5年度 学力向上指導改善プラン

上野台中学校長 福岡 孝太郎

学校教育目標		夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成		
推進主体		管理職と研究推進担当・関係分掌(情報教育等)、生徒指導担当・教科代表により研究推進委員会(兼 学力向上推進委員会)を設置		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<p>○「知識・技能」に関する問題の正答率が73.8%と高く、日常的な漢字ドリルや文法ワーク、あるいは授業で実施している小テスト等の取り組みの積み重ねが一定の成果となって現れている</p> <p>○「話すこと・聞くこと」に関しては全国平均を6ポイント上回り、「読むこと」に関して上回った</p> <p>◆「書くこと」の領域では、正答率は42.5%と低く、全国平均より4ポイント下回っている</p> <p>◆「書くこと」への苦手意識を克服するために、日常的・継続的に書く作業を取り入れる(表現の呼応の不一致がないよう意識させる)</p>	
		数学	<p>○「図形」の領域(証明で用いられる三角形の合同条件を問う)設問では、正答率が89.7%(全国73.2%)であり、三角形の合同条件を多くの生徒が的確に理解している</p> <p>○「データの活用」の領域(容器のふたを投げたときに下向きになる確率)を問う設問では、正答率が92.3%(全国83.2%)と大変高く、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を的確に理解している</p> <p>◆「数と式」「関数」の領域では、全校平均と同程度である</p> <p>◆道筋を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある</p>	
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	<p>○授業中に自分で調べる場面では、ほぼ毎日使っている(28%)</p> <p>○週3回以上を入れると65%となり、全国、兵庫を大きく上回っている</p> <p>◆クラスの生徒と意見を交換する場面や、自分の考えをまとめ、発表する場面、PCやタブレットなどのICT機器を使っているかという質問については生徒個人によって回答が異なる(ほぼ毎日~月1回)、実際の効果的活用については、教員サイドの検証が有効だと思われる</p>	
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる</p> <p>○小テスト、単元テストにコツコツ取り組んでいる</p> <p>◆生徒自身が学習方法を工夫することに課題がある(経年)</p>	
		授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>○落ち着いて学習に取り組むことができていいる。共に学ぼうとする雰囲気がある</p> <p>◆家庭学習の習慣が身につけていない生徒が少なくない</p>	
		慣学・力生向上に慣係等の学習状況	<p>◆自分には良いところがあると思うという問いに対して、どちらかといえば当てはまらないと答えた生徒が35%と高い。</p> <p>○地域とのつながりが強く、地域行事への参加、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒が多い。</p> <p>◆生活習慣(朝食、スマートフォン等の使用)の確立に課題がある</p> <p>◆他者に対しては優しいが、自己肯定感が低い生徒が多い。頑張りの成果の見える化や声かけを意識していく</p>	
校内研究状況・研修の	校内研究の状況	<p>○昨年度に引き続き、授業の中でタブレット(オクリンク)を効果的に使うことを意識して、職員間の交流を行うことができた</p> <p>○「学習のゴール」カードを全教室に提示、目標を意識した授業実践をした</p>		
	校内研修の状況	<p>○いつでも気軽に授業をオープンにしていこうという考えを常にもち、授業をしている</p> <p>◆オクリンク活用に絞ったため、実際に公開できた授業が少なかった。</p>		
家庭・連携・携校種間	家庭・地域等の状況	<p>○学校だより、生徒指導通信、学年だより、道徳通信等を活用し、継続して家庭や地域への啓発を行った。</p>		
	小・中における教科連携等の状況	<p>○4小学校で、小学6年生対象の体験授業を出前授業した。</p> <p>○新入生の春休みの課題とその確認テストを実施した。</p> <p>○小学校の英語授業を参観し、その後研修会を持った。</p>		
		4月	2~3月	
		学力向上に向けての重点的な目標	年度末評価	
		(指標となる数値等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
		成果となる目標	具体的な行動目標	
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
		評価		
		<p>1.授業改善 「分かる」「楽しい」「伸びる」授業の創造</p>	<p>・開かれた授業を基本とし、切磋琢磨する教員関係を築く</p> <p>・ICT機器の効果的使用をさらに進める</p> <p>・「学習のゴール」と「ふりかえり」を定着させる</p> <p>・学習意欲を高め、学ぶ姿勢づくり、授業規律や学習規律の徹底と学習形態の工夫を行う</p> <p>・校内研修、研究授業を実施する</p> <p>・朝学習(主にドリルパーク)の効果的運用を目指す</p> <p>・「思考・判断・表現」の観点、あるいは問題形式において「記述式」で全国平均を上回る</p>	<p>・積極的に互いに参観する期間を設ける</p> <p>校内研究授業として日程を設定し、計画的に多くの教員が一斉に学べる時間を設定する。</p> <p>・タブレットを中心としつつ、あらゆる機器を効果的に使えることを目指す</p> <p>・タブレットにおいては昨年度より効果的に活用することを目指す</p> <p>・「めあて」を確認し、「振り返り」で自己点検を意識した授業を進める</p> <p>・基礎基本を大切に、取り組みやすい小テストを実施する</p> <p>・朝学習で基礎基本の定着を図る</p> <p>・昨年度から朝学習の時間に取り組んでいることを継続しつつ、その成果を検証し、よりよい活用方法を探る(学習の定着状況を把握し個別最適化された学習の充実を図る)</p> <p>・プレゼンテーションなど、情報を整理し、目的に応じて情報を効果的に活用し、自己の考えを論理的に述べる授業を設ける</p>
		<p>2.自主学習の工夫・定着</p>	<p>・家庭学習の習慣づけ、効果的なやり方等啓発を行う</p> <p>・自主的に学ぶ場に積極的に参加する</p>	<p>・1学期に「家庭学習の手引き(仮称)」を作成する</p> <p>・日々の家庭学習や、テスト前の対策など、計画的に進められるよう支援する</p> <p>・学習チェック期間を設け、生徒自身が家庭での時間の使い方を考え自主的に学習できるよう支援する</p> <p>・木曜放課後教室(ノ一部活デイ)に「ひょうごがんばり学習タイム」を実施し、自主的学習時間として効果的運用を目指す</p>
		<p>3.生徒会活動の充実</p>	<p>・「発信力」「対人関係能力」を高める</p>	<p>・月1回の専門委員会活動の活性化を目指す</p> <p>・活動の見直しと新しい取り組みへ挑戦する</p> <p>・少人数だからこそできる、異学年交流活動を行う</p>
		<p>4.家庭、地域、学校園所の連携推進</p>	<p>・学習指導、生徒指導、特別支援教育、キャリア教育で幼小中連携の充実を図る。</p> <p>・2015年から続いている『虹プロジェクト』において、地域の方々との交流する場面を設定する</p>	<p>・『みんなで育てよう』をもとに実践的な連携を進める。中学校区幼小中全教職員対象合同研修会を実施する(7月下旬)</p> <p>・中学校横の志手原地区のフジバカマを摘み、乾燥させ、香り袋作成と一緒に取り組む</p>
		<p>5.読書活動の推進</p>	<p>図書委員会を中心に、読書活動を推進する。</p>	<p>・開館時間、図書の実用、呼びかけ等、委員会活動の充実を図る</p> <p>・定期テストの後の朝学習の時間を、読書時間として確保し、本に親しむ状況を作る</p>